



# アウト

第15号

2011年4月15日発行

九州国立博物館を愛する会



まだ被災の全貌も確認できない状況の中、福島第一原子力発電所の事故が新たな被災者を生み出しています。そういう中、東北の方々の地域性でしょうか、皆で助け合い元気を出して頑張ろうという被災者の方々の姿に世界が感動し、逆に私たちが勇気付けられるような日々が続いています。復興には何年もかかるでしょうが日本中でこの被災を支え続けなければなりません。輸血も義援金も援助物資も、今だけではなく息の長い活動が何年も必要です。この災害を通して、日本人が根本的に自分達の生活のあり方を見直すきっかけにして変わらなければ、何万人になるか解らない犠牲者の“死”を無駄にする事になると思います。 **がんばろう日本!**

## 「九博子どもフェスタ」—報告—

博物館って本当に楽しいよ！



事業委員会委員長 松岡 良一

九博の「あじっば」、本当に楽しいよ！これは九博開館5年を経過し博物館を訪れた福岡地域の子どもたちのイメージではないでしょうか。九博を愛する会の会員の皆様は勿論、「あじっば」にお見えになりましたよね！でも、お知り合いの方にお声をかけてください。意外と「あじっば」を知らない、いやまだ九博に行った事がない人が多いのです。

一昨年、九博を愛する会は九博に提案し「九博子どもフェスタ」を開催することになりました。

「博物館って意外と面白いね！」と、このキャッチフレーズは子供にせがまれて始めて来館した保護者のイメージかもしれません。愛する会のボランティアと九博ボランティアが一緒になって開催する初めてのイベントでした。お蔭さまで子供たちはもちろん保護者、そしてボランティアの皆さんにも大好評、その勢いで昨年も実施、これからも続けて欲しいと言う意見が保護者そしてボランティアからも多数寄せられました。

そんな中、今年は第3回目「九博子どもフェスタ」を2月20日（日）開催、次の二つの点に重点を絞り準備に取り掛かりました。

- ① 2月20日の開催日は、特別展（好評のゴッホ展は2月13日で終了）が開催されていないため来館者が少ないと想定され、そのため、広範囲にわたるPR活動を展開した。
  - \* 筑紫地区児童画展を同時開催し小学校48校の各児童にチラシ等でイベント案内をした。（前回同様）
  - \* 筑紫地区各4市1町の広報誌の2月1日号に子どもフェスタ開催の告知案内をした。
  - \* これまで九博のPR活動が、手薄と思われる糟屋地区の教育委員会や朝倉地区に会員の皆さんの協力を得て強く働きかけた。
  - \* テレビ・ラジオ・新聞等にも出来るだけ協力をお願いした。
  - \* 九博ホームページに子どもフェスタの詳細スケジュールをアップしてもらった。

- ② ワークショップを余裕あるスペースで実施するためミュージアムホールを開放、従来のステージはエントランスホールに特設ステージを設けイベント全体の一体感を持たせた。

その他、各グループが昨年までの経験を活かし、子どもの視点にたち研究・工夫を加えた内容に当日来館された4700名の大多数のお客様は満足されて帰られたことでしょう。

以下、イベント内容別に写真等でご紹介します。



### イベント内容

2月15日からエントランスホールで「筑紫地区児童画展」が始まりました。

（筑紫地区48校の児童画300点を展示、ゴッホの絵画に負けない素晴らしい作品も！）

<2月20日のエントランスホール>



「チマ・チョゴリを着て見て遊ぼう！」

ほかに「ひみついっぱい！チビッコ探検隊」



「わたしは遣唐使(人間すごろく)」

<2月20日のミュージアムホール>



「かざぐるまを作ろうよ！」

ほかに「ひもで結んでストラップ！」 「機を織ってみよう！」



「ハニワの色付け体験」



「紙あそびー夢を折る、思い出を折る、心で折るー」

ほかに 「タングラム (パズル) で遊ぼう！」



「木目込みまりを作ろう！」



「あじっば」での「きゅーはくの絵本 読み聞かせ」も大好評でした。

<エントランスホール特設ステージ>

クラウン楽団あつらんだむ

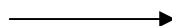
「ゆかいなピエロたちの楽しいコンサートとバルーンワークショップ」

学生ボランティアの劇

「ハニレンジャーと土くれのなかまたち」

北谷地区子ども会と太宰府中学校+九博ボランティア

「九博こどもにわか」



「九博こどもにわか」

## 第15回 九博デー「筑紫ブランド」座談会

### 私たちの地場産業は「歴史」だった？

事務局長 野田 和宏

平成23年3月26日に第15回九博デー「筑紫ブランド」座談会「私たちの地場産業は「歴史」だった？」が開催されました。

九博デーも今回で15回目となり初の福岡宅建協会筑紫支部との共催、座談会を収録し、九州国立博物館を愛する会のホームページにアップするなど新しい試みばかりでした。又、内容もこの筑紫地区の「歴史」・雰囲気・を「筑紫ブランド」として育てたい、この想いのもと、筑紫の歴史の象徴である九州国立博物館にて、それぞれの立場で意見交換を行い、その発信の場として企画と今までにないものでした。そして座談会のパネラーとしては太宰府天満宮西高辻 信良宮司、筑紫農業協同組合 藤 政行代表理事組合長、筑紫管内商工会 今田 清治 会長 代表、(社)福岡県宅地建物取引業協会 筑紫支部 森山 善博支部長、と錚々たるメンバーに、コーディネーターは九州国立博物館を愛する会の青山副理事長が務めました。座談会では、皆様々な意見が飛び交い素晴らしいもので、ホームページにアップされ、又見ることができると思うと楽しみです。私は座談会で一番印象に残る意見は、ブランド作りはファンを作ること、如何にしてファンを増やしていくかだと言う意見でした。愛する会をブランドにするには愛する会のファンを作り会員を増やす、そのためには様々な運動を地域に発信しなければならないと思い本年度最後の事業報告とさせていただきます。

本年度も有難うございました。



## 《 九博 特別展の見どころ 》

黄檗宗大本山萬福寺開創 350 年記念

九州国立博物館開館 5 周年記念

### 特別展「黄檗—OBaku— 京都宇治・萬福寺の名宝と禅の新風」

九州国立博物館 主任研究員 楠井隆志



中国風の仏像がならぶ展示室

臨濟宗、曹洞宗とともに日本三禅宗に数えられる  
黄檗宗おうぼくしゅうは、承応三年（一六五四）、弘法のため長崎  
へ渡来した明の高僧・隠元いんげんりゅうき隆琦（一五九二～一六  
七三）によって開かれました。隠元は、戒律を重んじ  
る正統な中国臨濟宗の法灯と厳格な仏教儀礼を日本  
に伝え、当時沈滞していた日本禅宗界に新風を吹き込

みました。隠元のもとには、鎖国下で大陸への留学が果たせない、求道心に燃える日本僧が  
参集しました。その高風は幕府にも届き、隠元を日本に留めるための新寺建立が特別に許さ  
れ、寛文元年（一六六一）、黄檗山萬福寺おうぼくさんまんぶくじが京都宇治の地に開創されました。

大陸風の伽藍配置がらんと建築意匠により建立された萬福寺諸堂には、隠元をはじめとする黄檗  
高僧の筆になる扁額へんがくや聯れんが掛けられ、明人渡来ほんどうせい仏師范道生に命じて造らせた諸像が安置され  
るなど、かつて隠元が住持を務めていた福建省福州府の黄檗山萬福寺を彷彿とさせる寺観が  
ほぼ再現されました。そこでは、儀礼法式の次第、唐韻による梵唄、鳴り物、飲食作法にいた  
るまで、すべてが明朝式の厳格な清規に従って執り行われました。

萬福寺では、隠元以後も渡来僧が連綿と住持を務め、中国さながらの宗教文化と生活文化  
が維持されました。それは、隆盛時に全国千カ寺を越えた末寺を通じて各地にも浸透し、中  
国趣味の知識層にとどまらず、庶民の日常生活にも彩りを添えました。たとえばインゲン豆、  
丸い木魚、明朝体、煎茶など、黄檗の文化は今日の生活の身近なところで数多く息づいてい  
ます。

今年、黄檗宗大本山萬福寺の開創三五〇周年にあたります。これを記念して開催するこの  
特別展は、萬福寺所蔵の名宝と九州を中心とする黄檗寺院所蔵の優れた仏教美術を紹介し、  
隠元禅師渡来前後から萬福寺開創に至る日本黄檗宗開立の歩みを、十七世紀の東アジア世界  
という広域的な歴史のうねりのなかで捉えてみようとするものです。

会場には、異国的な魅力あふれる仏像や仏画がいっぱい並んでいます。とくに長崎唐寺とうていの  
仏像たちは、私たちが普段見慣れている日本の仏像とは異なり、独特な顔立ちや精緻な細部  
の表現に驚かされます。総高五メートルにおよぶ萬福寺禅堂の白衣観音像も圧巻です。また  
ダイナミックな墨蹟もたくさん並んでいます。当時最先端の中国書風で書かれた扁額やその  
原書、聯とよばれる細長い一対の木板など、まるで中国の禅寺を訪ねたかのような錯覚を覚  
えることでしょう。江戸時代に出現した中国仏教文化のテーマパークを九博に再現してみま  
した。どうぞお楽しみください。

《イベント情報》



開催日	時間	もよおし	その他条件	会場	問合先 ※注1
-----	----	------	-------	----	------------

特別展「黄檗-OBAKU- 京都宇治・萬福寺の名宝と禅の新風」関連イベント

①4月24日(日) ②5月4日(水・祝)	10:30~ 14:30	茶席 (①日本礼道小笠原流 ②東阿部流 ③賣茶流)	当日先着受付／無料 (特別展チケットの 半券提示が必要)	茶室	B
①4月24日(日) ②5月3日(火・祝) ~5月8日(日) ③5月15日(日)	①11:00~ ②14:00~	厄よけストラップ 手づくり教室	当日受付／先着順/ 材料費 800 円(当日支 払)	エントランス	B
4月23日(土)	14:00~15:00	講座「長崎と黄檗文化～興 福寺を中心として～」	要申込／定員 280 名 ／無料	ミュージア ムホール	B
4月26日(火) ~5月8日(日)	9:30~17:00	京の老舗 名産品展		エントランス	B
5月1日(日)	①11:00~11:30 ②14:00~14:30	二胡コンサート	要申込／定員 280 名 ／無料	ミュージア ムホール	B
5月3日(火・祝)	14:00~ 15:00	講座 「黄檗肖像画と長崎のお絵像」	要申込／定員 50 名／無料	研修室	B
5月4日(水・祝)	①11:00~11:30 ②14:00~14:30	声明(しょうみょう) 「梵唄(ぼんばい)」	要申込／定員 280 名 ／無料	ミュージア ムホール	B
5月7日(土)	14:00~15:00	法話「黄檗の文人趣味につ いて」	要申込／定員 50 名/ 無料	研修室	B
5月15日(日)	14:00~15:30	法話と坐禅会 「坐禅と提唱」	要申込／定員 30 名/ 無料	研修室	B

その他のイベント

4月22日(金)	①14:00~14:30 ②15:00~15:30	きゅーはくカフェコンサート	無料	エントランス カフェ前	A
4月30日(土)	①10:30~11:30 ②14:00~15:00	トピック展示 帰国展「日本とタイ ふたつの国の巧と美」関連イベント ワークショップ「久留米緋の糸と腰 機でコースターを織ってみよう！」	要申込／定 員各回 8 名/ 無料	研修室	C
5月1日(日)	13:30~	トピック展示 帰国展「日本とタイ ふたつの国の巧と美」関連イベント 講演会「日本とタイーふたつの国 の文化の違い」	定員 80 名/ 当日先着順 ／無料	研修室	A
5月3日(火・ 祝)	15:00~15:30	ラ・フォル・ジュルネ鳥栖「熱狂の 日」音楽祭プレイベント～ミニコン サート	無料	ミュージア ムホール	E
5月5日(木・ 祝)	①11:00~②13:3 0~ タイ舞踊体験ワーク ショップ14:00~	トピック展示 帰国展「日本とタイ ふたつの国の巧と美」関連イベント 「微笑みの国からやってくる 魅惑 のタイ舞踊」	当日先着順 ／無料	ミュージア ムホール	A
5月8日(日)	①10:30~11:30 ②14:00~15:00	第5回親子で茶道体験	要申込／親子(小中高 学生)1組 2名 500円 ／定員各 5組 10名程	茶室	D
5月8日(日)	①13:00~13:30 ②15:00~15:30	きゅーはくミュージアムコンサート	無料	ミュージア ムホール	A

5月10日(火) ～ 5月29日(日)	9:30～17:00	第50回記念 日本現代工芸美術 福岡展	無料	ミュージア ムホール/ エントランス	F
5月14日(土)	14:00～15:30	トピック展示 帰国展「日本とタイ ふたつの国の巧と美」関連イベント 講演「タイの仏 日本の仏」	定員 80 名/ 当日先着順 /無料	研修室	A
5月28日(土)	13:30～15:30 予定	第1回ガムランワークショップ	要申込/無料 /定員 28 名	エントランス 予定	C
6月12日(日)	13:30～15:30 予定	第2回ガムランワークショップ	要申込/無料 /定員 28 名	ミュージア ムホール	C
6月25日 (土)	①10:30～11:30 ②14:00～15:00	第6回親子で茶道体験	要申込/親子(小中高 学生)1組2名 500円 /定員各5組10名程	茶室	D
6月25日 (土)	①13:00～13:30 ②15:00～15:30	きゅーはくミュージアムコンサート	無料	エントランス 予定	A

※注1

- A 九州国立博物館 NTTハローダイヤル 電話050-5542-8600 (8:00～22:00)  
 B 西日本新聞イベントサービス内「黄壁」係 電話092-711-5491(平日10:00～17:00)  
 C 九州国立博物館 交流課教育普及室 電話092-929-3294  
 D 九州国立博物館 交流課交流事業室 電話092-929-3602  
 E ラ・フォル・ジュルネ鳥栖「熱狂の日」音楽祭実行委員会事務局 電話0942-50-0006  
 F (社)現代工芸美術家協会九州会(担当:馬場) 電話0955-42-3306



蔵造りの土壁 厚さ 200mm

年月を経た梁組等の木組みは、磨きあげられ、独特の風合いを醸し出しています。落ち着いた空間です。



風情のある素晴らしい中庭

長崎街道沿いにある、明治二十年くらいから呉服点を営んでいた井手さんの家。お母様が一人住まいを続けてこられました。三年前になくなられ、太宰府で暮らされていた井手さんが、人生の節目・古希にして生まれ育ったこの家に戻り、再生されました。暗い、寒い、使いづらいという古民家の問題を修正し、良いところを活かしています。使いづらさは動線を考えて、キッチン・トイレ・浴室を茶の間の近くに配置しました。寒さ対策には床に四十mの杉板、壁は厚さ二百mmに、屋根には断熱材を配し、掘りごたつだけでも十分すぎるそうです。暗さに対しても、屋根にガラス瓦を使用して採光に配慮されています。吹き抜けには回廊を設け、井手家の歴史と文化を展示するスペースが造られました。中庭を残し風情を楽しまれています。古さと機能性を併せ持つ新しい家です。

古民家再生

会員井手良治さんのお宅

機能性を併せ持つ長崎街道沿いの商家

帰国展「日本とタイ ふたつの国の巧と美」4月12日オープン！

九博を愛する会 副理事長 佐藤 敏子



去る1月15日よりタイ王国で開催されておりました展覧会「日本とタイ ふたつの国の巧と美」が4月12日(火)より九州国立博物館にて公開されています。

九博を愛する会は、同展覧会に協力して1月にタイ研修旅行を実施し、バンコク国立博物館での同展覧会開会式に出席し、同館ボランティアと一緒にワークショップを開催し交流をしてきました。

今回の九博での帰国展の開会式は11日(月)に行われ、近藤誠一文化庁長官、アナン・チューチョート国立博物館事務局長、海老井悦子福岡県副知事、三輪嘉六九博館長などの主催者と共に、前田和美愛する会理事長もオープンのテープカットの一人として来賓参加をさせていただきました。太宰府天満宮の神楽巫女舞・タイ王国舞踊団の舞が優雅に艶やかに華をそえ、多くの愛する会会員も参加し応援しました。展覧会詳細は以下の通りです。

九州新幹線全線開通記念 アジア友好日本古美術帰国展  
(トピック展示)「日本とタイ ふたつの国の巧みと美」

期間：2011年4月12日(火)～6月5日(日)

月曜休館 ※ただし5/2(月)は開館

場所：九州国立博物館 (文化交流展示室 第9・10・11室)

内容：(1) ふたつの国のはじまり (2) ふたつの国の仏教  
(3) ふたつの国の出会い (4) 現代に生きる伝統



古から密接な関係を持つタイと日本の歴史や文化の伝播交流がわかるように展示されています。較べながら鑑賞していくと新たなことに気づかされるかもわかりません。

タイと日本、アジアの中の日本を感じる展覧会です。600年におよぶ長い交流の歴史をもつ日本とタイ。江戸初期に遠い南の国「タイ王国」から輸入されたものがあり、大変珍重されました。それは、日本人にとって単なる舶来品ではなく、格別の価値をもつものでした。本展は、両国の文化財が一堂に会した初の展覧会で、「国のはじまり」「仏教」「出会い」「伝統」という4つの視点から、両国の造形と美意識を探ります。先史時代の稲作文化と祈りの形、仏教美術、異文化交流により作り出された美術品の数々など、ふたつの国の長い歴史と出会いの中で生まれた造形美をご覧ください。

天を突く 仏塔の群れの 荘厳さ  
朽ち欠けし パゴダのレンガに アユタヤの  
往時の栄華 偲ばるるかな  
仏の国に 思ひを馳せる

井手良浩さん(会員)のタイ研修旅行を詠う  
南蛮船で はるばる日本へ 運ばれし  
タイの小壺が 里帰りせし  
巫女舞と タイの踊りは 交々(こもごも)に  
神に捧ぐる 祈りのかたち



## 東日本大震災の中での国博通り街路灯・道路の清掃(ピッカ美化隊活動)

九博デーの一環として始めた3月25日(電気記念日)の国博通り街路灯・道路の清掃(ピッカ美化隊活動)は今回で4回目となりました。

快く働きかけに応じていただいた九電・九電工・太宰府市役所・馬場区自治会の皆さんに、そして愛する会の会員の皆さんに心から御礼申し上げます。東日本大震災直後のイベントですので一旦中止を思慮しましたが、震災でお亡くなりになった方々へ黙祷の後、太宰府市平島副市長はじめ、他各団体の代表の方にご挨拶いただき作業開始、高所作業車(震災の関係もあり昨年の3台から2台へ)で24基もの街路灯を次々と効率よく清掃、他の人たち(電力関係約30名、市役所7名、馬場区自治会7名、愛する会22名)は国博通りの道路・公園の雑草の除去作業や、定例の九博周辺道路のゴミ拾いを行いました。

作業終了後、馬場公民館に約60名が集い愛する会が準備したおにぎりに九電さんから炊き出していただいた暖かい豚汁を食べながら、お互いの団体紹介を行いました。また、今回はピッカ美化隊初代隊長の井手(九電出身)さんから福島第一原発で復旧作業に従事されている方々に対する敬意の言葉と、そして日本全体でこの苦難を乗り越えようと呼びかけられました。

この大震災復旧には市民・企業・行政が三位一体となりはじめて軌道に乗ることも、あらためて痛感させられましたが、私たちが今実施しているこのイベントも正に三者が一体となって実施しており、今後も尚一層、充実させていきたいものです。

(事業委員会・ピッカ美化隊)

## 「黄檗 OBAKU」特別観覧例会

去る、4月7日に「黄檗 OBAKU」特別観覧例会を開催しました。

拝観謝絶とされている萬福寺の隠元禅師の頂相ちんそう、禅堂安置の白衣観音像びやくえかんのんなど今回も素晴らしい展示を見ることができました。

また、会員さんの出席も100名を超し、充実した例会でした。

次回は、『日本の宝をまもるー文化財保存修理の歴史(仮称)』です。

多くのご出席をお願いいたします。有難うございました。

(例会委員会 吉村 美和)



## 「米つくり隊」に参加して

米つくり隊長 平島省一

地元北谷地区のメンバーは、呼びかけにより9名が集まり、とても自分1人では「やる気」になれない、休耕田約50a (5,000㎡)でしたが、5月9日(日)北谷区クリーンデーの終了後、それぞれ農機具(トラクター・草刈り機・チェーンソー等)を持ち寄り、第1回の稲作のための復旧作業を行いました。9名は全員、兼業の農業経営者・後継者であり、作業は9名の数の力で軽く作業も完了し、作業後の会議も楽しく充実した1日でした。メンバーのほとんどは、地元消防団員、農協青年部員、伊勢参宮同行・宝満会(ゴルフ)のメンバーで、また、北谷ソフトボール同好会の会員でもあり、長年意気のある仲間でもあります。稲つくりの1年は、6月5日に田植えでスタートし、12月12日の餅つきで終了しました。



「杵」と「唐臼」を使う昔ながらの餅つき体験は珍しく子どもたちもたいへん興味を持ってくれました。多数の参加でにぎやかで楽しい経験でした。自分の家でも餅つきはしますが、機械での餅つきで、しかもここ数年夫婦だけでの餅つきです。こんな賑やかな餅つきは梅上げ・農協まつりでの餅つき以来です。本当に楽しかった。



3月26日 急遽追加活動を実施しました。

「第15回九博デー」当日に「東日本大震災の復興支援餅つき」を九博北庭園で行いました。「唐臼」での餅つきはお客さんの関心も高く、昔の生活文化の知恵の紹介にもなりました。募金は28,334円が集まり太宰府市役所を通じ宮城県多賀城市へ贈りました。

そして、地元北谷地区のメンバーは、当初から2名増え11名になりました。

平成22年の稲づくりについては、多数の方の参加と農作業後の昼食時の料理、心のこもった接待など皆さんとの気持ちの良い付き合いが



でき、参加してほんとに良かったと思っています。

平成23年度は6月5日(日) AM10:00の田植えからスタートです。お待ちしております！



## 九博を愛する会と九博ボランティア

永田香織（元九州国立博物館ボランティア担当職員）

3月27日、九州国立博物館ボランティアの終了式に出席しました。第一期ボランティア立ち上げの時期から第二期ボランティアの1年目まで関わらせていただいた私としては、とても感慨深いものがありました。

振り返ってみると、九博ボランティアはいつも“愛する会（支援する会）”とともにあったように思います。第一期ボランティアの募集説明会の時には、当時の“支援する会”の皆さんに九博館内の案内をしていただいたように記憶しています。また、九博ボランティア発足後も、館内案内の研修では“支援する会”の皆さんに講師をお願いしました。“支援する会”のメンバーで九博ボランティアになった皆さんは、それぞれのグループの中で“支援する会”での経験を生かしながら活躍していただきました。そのほかにも古都の光、政庁まつり、九博デー（国博デー）、ピッカ美化隊など皆さんの活動は九博ボランティアにさまざまに影響を与えていただいたと思います。

「子どもフェスタ」では“愛する会”の皆さんから、九博ボランティアに「一緒にやりませんか」とご提案いただき、ともにイベントを実施することができました。このイベントへの取り組みから、九博ボランティアの中では、子ども向けプログラムについて議論・再考することができ、新たな活動にもつながりました。また、“愛する会”の皆さんや、それまでなかなか接することのなかった他のグループの皆さんと一緒に活動することにより、和が広がり、一体感が生まれたように感じています。たくさん子どもたちに参加いただいたこのイベント、“愛する会”の皆さんと共に取り組み、それぞれの力を発揮できたからこそ成功したのだと考えています。

“愛する会（支援する会）”から九博ボランティアへ、九博ボランティアになって“愛する会”を知り、“愛する会”の会員へという動きが少しできてきているように思います。ボランティア終了式で会った学生部会の第一期メンバーの一人も、「これからは愛する会に入って活動することになりました」と報告してくれました。“愛する会”と九博ボランティア、これからもお互いに刺激しあい高めあう関係が続けばいいなと考えています



【広報委員会の東博訪問に筆者(右より3人目)も同行】

↓【子どもフェスタ 愛する会会員の活動】



※永田香織さんは、九博の職員時代から愛する会の活動に深い理解をしていただきました。彼女は社会教育関係の研究者で研究論文などでも支援する会・愛する会を度々発信していただいています。ただいま関東のほうにお住まいですが愛する会の会員です。

私のまわりの魅力的な人たち

九博交流課 村田真知子

私が太宰府に引っ越してきたのは今から二年前。はじめは観光地である太宰府での暮らしに少し不安を感じていました。しかし、今では天満宮の爽やかな緑の中を通勤し、休みの日は梅や菖蒲などの季節の花を楽しみ、近所の川のせせらぎに耳を傾けたりと、太宰府での暮らしを満喫しています。



そんな太宰府のファンとなった私には、もう一つ魅力を感じる町があります。それは福岡市中央区春吉です。太宰府とは対照的で春吉は都会のど真ん中にあり、さらに昔はちょっと近寄りにくい町として知られていました。しかし一歩足を踏み入ると細い路地や古い建物、個性的な居酒屋が立ち並ぶ下町のような懐かしい雰囲気があります。そして何より春吉には魅力的な人たちがいます。春吉を愛してやまない「晴好(はるよし)実行委員会」のおいちゃんたちです。ホームページ

で春吉の魅力を紹介したり、毎年5月にはライブステージや春吉のうまかもんで賑わう「晴好夜市」を開催したり（今年は5月8日に開催！）と春吉を盛り上げるために日々奮闘しています。そんなおいちゃんたちと私が出会ったのは、ちょうど大学でデザインやまちづくりについて学んでいた頃でした。おいちゃんたちの春吉への熱い思いにひかれ、イベントのチラシや冊子のデザインなど自分の得意なことでお手伝いをさせていただくようになりました。

そして太宰府はご縁あって「九州国立博物館を愛する会」のお手伝いをさせていただいています。実は「九博子どもフェスタ」のチラシは私がデザインしたものなんです！！

活動内容も拠点も異なる「晴好実行委員会」と「九州国立博物館を愛する会」ですが、どちらともに強く感じたのは町や博物館に対する皆さんの熱い想いでした。そして、皆さんの存在そのものが町や博物館の魅力の一つになっていると感じました。そんな魅力的な皆さんとデザインを通して関われる事は私にとっても嬉しい事です。ささやかですが、これからも何かの形でお手伝いしていきたいと思います。



編集後記：

東日本大震災の被災者の方々にお見舞い申し上げます。  
今号は明日の日本を担う元気な子どもたちの集い「子どもフェスタ」を中心にお届けしました。「頑張ろう。日本！」明るい未来を信じつつ。 (M. K)